

今回は、探究活動を生かした進路実現の報告（その2）です。

◇ 九州大学農学部合格体験記（長野光さん）です。

私は、総合型選抜Ⅱの入試方式を活用し、九州大学農学部合格しました。総合型選抜で受験をするにあたって、岐阜県博物館のサポーター活動である「岐阜県の魚研究会」の活動を軸に自己推薦文や志望理由書の作成、面接の対策を行いました。今回は、長年続けてきたサポーター活動と総合型選抜の2点について主に記したいと思います。



岐阜県博物館のサポーター活動の様子

◇ 岐阜県博物館のサポーター活動について

私は小学5年生から岐阜県博物館ボランティアである「サポーター」として、「岐阜県の魚研究会」の活動に参加してきました。この研究会の主な活動は、博物館の収蔵庫内の魚類標本の整理や、新たな魚類標本の登録などです。

約7年間の活動を通して、自分にとって非常に良かったと感じられることは主に2つあります。1つ目は、専門的な知識を得ることができたことです。魚研究会には、毎回岐阜大学の准教授が来てくださり、楽しく作業しながら様々な専門知識を教えてくださいました。さらに、最新の研究成果の論文を見せていただくことも多々あり、最前線の情報を手に入れることができました。

2つ目は、たくさんの人とのつながりを多く持てたことです。私が参加している魚研究会には、年下の小中学生から中高年の方までの幅広い年齢層、知識層の方が参加されています。普通に生活している分には、家族や学校の先生方を除けばあまり同年代以外と接することはないと思いますが、いろいろな立場や年齢層の方たちと会話を交わすことはとても良い経験になります。また、普段から大学や高校の専門家の方と接していたおかげで、面接の際には萎縮することなく、普段専門家の先生方と話をするような感覚で受け答えができました。岐阜県博物館のサポーター活動には、生物学、地学、行事の支援など多岐にわたる活動があります。自分の気になる分野があるならば参加してみることをお勧めします。

◇ 総合型選抜について

総合型選抜は、以前はA0入試という呼び方をされていました。自分の興味関心や今までの実績を大学にアピールして合格を目指す方式です。今年の九州大学農学部の場合、志望理由書と自己推薦文、調査書による一次選抜（書類選考）が行われ、その後にオンライン面接による二次選抜と共通テストの結果によって合否判定が出ました。大学や学部によって違いが多くあるので、希望したい人は早めに調べておくといいでしょう。

推薦やA0などの対策は大変だというイメージがあるかと思いますが、私はそこまで大変だとは感じませんでした。それは、自分のやりたいことが具体的に決まっていて、それに関する活動や知識を深めることを継続して行ってきたためだと思います。そのようなタイプの人には、そこまで大きな負担にはならないと思います。私の場合、自己推薦文や志望理由書は書ききれないほど書くことができましたし、面接練習は自分の考えを深めていける実感があり、とても楽しく有意義な時間にできました。逆に、やりたいことが具体的に決まっていない人には、とても大変だと思います。そのような人には到底お勧めできません。ですが、「この大学のこの学部が自分に最高に合っていて、どうしても入りたい！」という思いに加え、ある程度の知識や実績がある人には大にお勧めします。厳しいようですが、該当分野の知識、実績が乏しい人にもお勧めはできません。受験に熱意は必要ですが熱意だけではどうにもならない部分もあります。そのことも踏まえつつ、なるべく早くからご家族や先生方と相談を始めておくといいと思います。

◇ 最後に

私は、理系にもかかわらず理系教科が苦手で、二次レベルともなると手も足も出ないといった経験をしてきました。そんな私でも高校入学当初から第一志望だった九州大学農学部に合格することができました。一般入試では合格するのは難しかったと思います。総合型選抜は、大逆転を狙える入試制度です。自分が人より優れていると絶対的な自信を持てることのあるのなら、検討してみる価値はあると思います。簡単に志望校を落とすのではなく、志望校になんとか合格できる方法がないか模索することが重要です。自分が持てる可能性をすべて生かし切り、夢の実現に向けて頑張ってください。



アントロポスSEKIシンポジウムの様子（2019年12月15日）

本校を会場に行われた高校生による学術シンポジウム。関高チームの一員として「長良川中流域におけるマイクロプラスチック」に関する発表を行った。